

【1.体制】

循環器内科は、2023年度より田中が着任し、2名体制となった。長年休止していたペースメーカー交換術を再開し、今年度は4例実施し、合併症なく終了した。熊本病院との連携についても不整脈を手始めに、連携強化を実施し、カテーテルアブレーションについては当院からの直接予約が可能となった。入院についても、心不全を中心に連携強化への取り組みを開始した。

【2.取組内容と実績】

2023年度は、コロナウイルス感染症が前年より落ちつき、また5類感染症への移行もあり、前年度に比し、症例数は増加となった。

1.入院

入院患者のデータは、循環器疾患の患者のみにしぼっての報告となる。

2023年の循環器疾患患者の入院数は99名（CPA例は除く）。平均年齢が85歳（中央値は85歳）で、この数年とほぼ同じであった。

このうち死亡患者は8名8%で昨年より減少した。死亡患者は、昨年同様、すべて後期高齢者であった。死亡患者の死因の内訳では、心不全と考えられる方が6例と最も多く、急性心筋梗塞1例、心肺停止蘇生後1例であった。

循環器入院99例の疾患別内訳は、心不全が最も多く、65名であった。心不全症例の平均年齢は86歳であった。

急性冠症候群の入院は3名であった。急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者が2名であった。なお、CPAOAの患者さんで虚血性心疾患を強く疑われる内因性心臓死の方が7名おられた。

心房細動を含む不整脈疾患の入院数は、17名であった。うち、4例は当院でペースメーカー交換術を施行した。

(表1) 入院患者さんの疾患内訳 (例)

急性冠症候群(転送を含む)	3
肺高血圧症	1
心不全	64
不整脈	17
心膜炎・心筋炎	2
弁膜症(心不全合併を再掲)	3
たこつぼ型心筋症	3
感染性心内膜炎	1

2. 外来

外来では、2023年度も済生会熊本病院心臓血管外科から応援をいただいた。

循環器内科の外来患者は毎月約800人程度であり、前年度より減少傾向であった。

ペースメーカーチェックを行っている患者は60数名であった。

通院が困難な患者に対しての訪問診療、巡回診療（一部はオンライン診療）も実施した。

循環器関連の検査は、2022年度とほぼ変わりがなかったが、不整脈診療件数の増加にともないHolter心電図、心臓CT（肺静脈造影を含む）の件数が増加した。トレッドミル：23件、ホルター：144件、心エコー：1128件、ABI：70件、下肢血管エコー：149件、頸部血管エコー：99件、ヘッドアップティルトテストが113件であった。

(表2) (例)

	2021年度	2022年度	2023年度
心エコー	1298	1123	1128
ヘッドアップティルト試験	174	155	113
トレッドミル	29	19	23
ホルター	154	112	144
頸部血管エコー	166	112	99
下肢血管エコー	205	197	149
ABI	123	66	70
心臓CT	13	11	21
血管CT&,MRI	104	102	128

【3.今後の課題】

リハビリ室の改修により、心大血管疾患リハビリテーション料の算定が可能となる予定であることから、心臓リハビリテーションの拡大を図る予定である。それに伴い、済生会熊本病院などから亜急性期の虚血性心疾患や慢性心不全急性増悪症例の受入体制を強化する必要がある、心不全カンファレンスの新設などを2024年度中に計画している。